



みどり おか 緑の丘

2023年 4月21日 春のたより号 発行者 坂野 直美

緑の丘で本との出会い

今年度も、学校図書館通信を発行したいと思います。通信の名前、『緑の丘』は平戸中学校の校歌の歌詞からいただきました。坂道をのぼり『緑の丘』に集う皆さんが、読書に親しめるようにと願って、この通信を発行します。緑の丘の学び舎で、たくさんの本と出会ってください。

言葉の贈り物

二〇一八年、亡くなった女優樹木希林さんのメッセージです。最期まで自然体で生きた樹木さんの言葉には、強さと温かさが感じられます。

幸せというものは
「常にあるもの」ではなくて
「自分で見つけるもの」

『樹木希林―20の遺言』
宝島社文庫

夢につながる言葉

小説の登場人物、陸上の選手がインタビューで語った言葉です。夢をつかもうと努力する人の言葉には、力があります。

いつも自分との戦いです。自分が敵です。明日の自分でもない、昨日の自分でもありません。今日の、今の自分との戦いだと思います。

『サバカン』
金沢 知樹 著

言葉を豊かに

お知らせ

4月23日から5月12日まで、こどもの読書週間になります。標語は「ひらいてとじた笑顔がふえた」です。今年度も笑顔が増えるよう、図書館に入ってすぐの机に新しい本を置いています。新しい本の貸し出しは、一人二冊までです。ていねいに扱ってください。

読書のススメ

『読書の時間に読む本』西本 鶏介 編
編者のまえがきから引用します。「長い人生の中で中学時代ほど読書の奥深さを感じられる時代はないと思う。文学はかけがえのない心の栄養剤である。一日に10分でもいい。人間とは何かを描いた作品を読んでみることだ。その感動の積み重ねが生きるためのエネルギーになる。」太宰治や三島由紀夫などの作品で、比較的読みやすい小説が収められています。挑戦してみてください。

映画の原作はいかが？

『サバカン』金沢 知樹 著
作者の金沢さんは、長崎県長与町の出身。この本を原作とする映画「サバカン」で監督を務めました。ひと夏の冒険、家族や友人との心の交流を通して、成長する少年の姿が描かれています。お笑い芸人でもあった作者のセンスが光る、笑いあり涙ありの小説。昔子供だった皆さんにこそおすすめの一冊です。

学校図書館通信で紹介している本はすべて学校図書館にあります。